【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	栃　木

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	矢板市立矢板中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	8	7	8	2	２５	４４
生徒数	２５７	２７０	２９３	5	８２５	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

「確かな学力」を身につけるための個に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善について

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

・１年生・数学
生徒の学力に差がでやすい教科であり、中学校数学の基礎になる学年である。また、長年にわたり数学科でティームティーティング（TT）を実施してきた経緯がある。
・全学年・選択教科
学校全体として基礎基本の定着を目指し学力向上に取り組む。

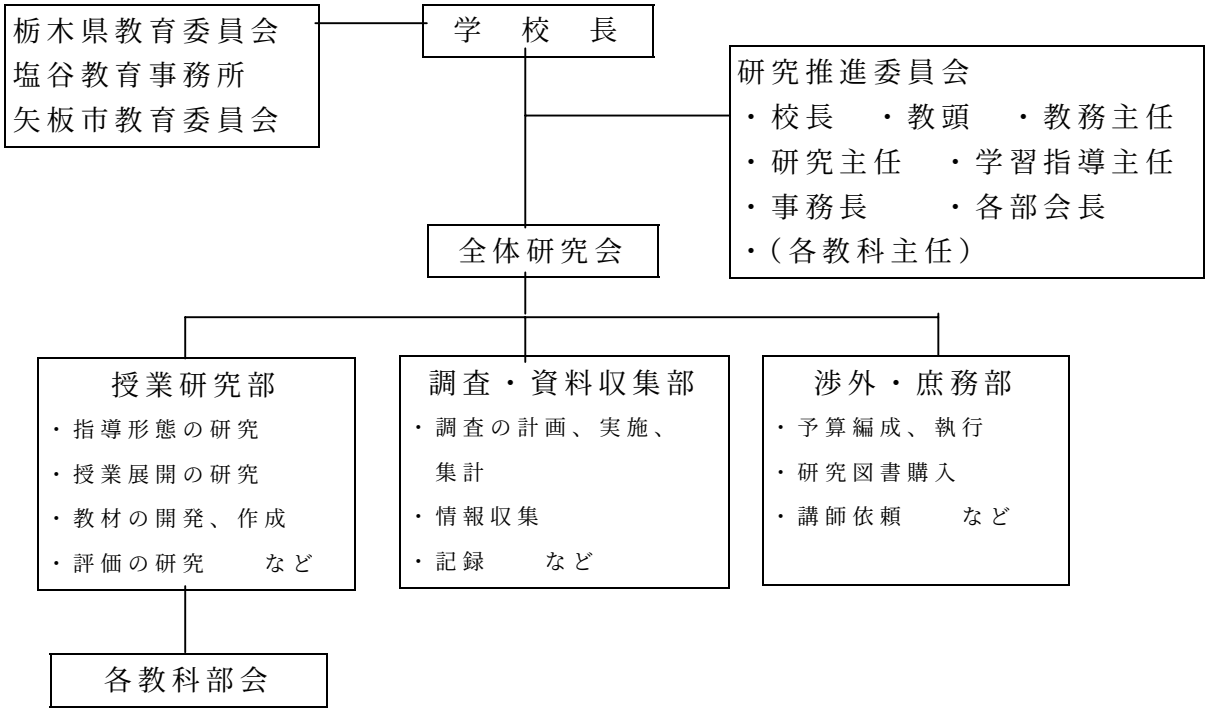
(2)　年次ごとの計画

平成14年度	○テーマ 個に応じた指導方法や指導体制の工夫 ○研究の見通し（仮説） できるだけ個別指導の時間を確保することで、生徒の学習意欲や学力の向上を図ることができる。 ○研究の内容・方法 ・数学科では、１年生で少人数学習及び習熟度別学習を行う。 ・選択教科では、全学年全教科で補充学習を中心に行う。 ・外部人材の活用を図る。

平成15年度	○テーマ 学習内容に応じた授業展開や指導形態の工夫と実践 ○研究の見通し 学習内容を考慮して学習集団を工夫することで学習の効率が上がり、生徒の学力向上が期待できる。 ○研究の内容・方法 ・数学科では、１年生で習熟度別学習を行うが、１年次の反省をもとにより柔軟な学習集団の編成を試みる。他教科でも TT や習熟度別学習の可能性を探る。 ・選択教科のコース編成のあり方と学習形態の工夫 ・指導計画の見直しと改善

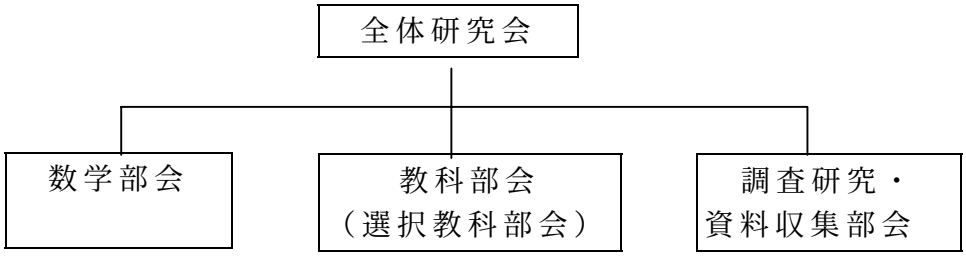
平成16年度	○テーマ 自己評価能力の育成と教科間の連携 ○研究の見通し 正しい自己評価ができることが学習意欲と学力の向上につながる。他教科との連携を図ることで、学習課題の見直しや指導方法の改善ができる。 ○研究の内容・方法 ・評価計画及び評価規準、評価方法、評価問題の見直し ・自己評価のあり方と自己評価表の工夫 ・教科間の連携（授業の公開、他教科の授業参観、指導案の検討など）

(3)　研究推進体制



【改善点】・数学科に重点を置きすぎていたので、より学校全体で取り組むよう「授業研究部」とした。
・「渉外・庶務部」を設け、実践研究を側面からサポートできる体制を整えた。

【平成１４年度の研究組織・一部】



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

(1) １年生の数学は、１つの学級を習熟度による２つの学習集団に分けた少人数授業のため、個別指導が充実した。
(2)習熟度別による少人数の授業は生徒にも概ね受け入れられている。
①６０％の生徒が一斉指導よりも習熟度による編成に賛成しており、また、ＴＴや異質集団による少人数編成などよりも習熟度別編成の方が効果があると期待している。
②約８０％の生徒が、授業に集中できる、学習内容がよく理解できる、学習内容・進み具合が自分に合っていると感じている。
③授業中の発表や発言、質問のしやすさでは、ＡコースとＢコースで差が見られたので、学習形態も含めて引き続き検討したい。
(3)習熟度別編成のねらいや授業の進め方などのガイダンスが機能し、ほとんどの生徒が自分にあったコースを選択できた。
(4)英語科でも、ＴＴによる授業を実施することができ（後期から２年生で週３時間のうち２時間実施)、補充が必要な生徒への支援が特に充実した。
(5)３年生の選択教科では、各教科で基礎（補充）から発展まで多様なコースが設定され、希望する教科・コースを選択することができ、学力の向上に役だった。

２．今後の課題

(1)１年生の数学の習熟度別学習では、実施したすべての章でＡコース（基礎）を希望する生徒の方がＢコース（基礎＋発展）を希望する生徒よりも多いので、指導計画・内容の見直しや再検討が必要である。
(2)自己評価を積極的に取り入れ、学習意欲の向上、主体的な学習への取り組みができるようにしたい。
(3)授業の公開や参観を通して、他教科との連携を図り、自教科の指導の改善につなげたい。
(4)授業以外での学習への取り組みについても検討し、学習習慣の充実につながる方策を考えたい。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

CRT の実施（年１回、３月）学習到達度を把握する
定期テスト（年５回）学習内容の理解や定着の様子を把握する
アンケート調査（年２回）生徒の授業への取り組み方、学習意欲、意識の変容などを把握する

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・塩谷地区学力向上推進協議会　第１回（平成１５年５月２６日）
　　第２回（平成１６年２月２３日）
・学校だよりで保護者に説明（随時）
・ＰＴＡで習熟度別授業について保護者に説明（１学期末）

◇　次の項目ごとに、該当する個所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　☑１４年度からの継続校

【学校規模】　□３学級以下　□４～６学級
□７～９学級　□１０から１２学級
□１３～１５学級　☑１６学級以上

【指導体制】　☑ 少人数指導　□Ｔ．Ｔによる指導
□その他

【研究教科】　□国語　□社会　☑ 数学　□理科
□外国語　□音楽　□ 美術　□技術・家庭
□保健体育　☑その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑ 有　□無